

周恩来なき

中国問とその将来

<上>

東京外国語大助教授 中 嶋 嶺 雄

中国国内の政治情勢はこのところ急速に流動化し、いわゆる走資派批判がわきまがたつてきた。いったい中国はどうなるのか。毛沢東健在の今日でさえもこのような状況だから、これから中国はもう一つ大きな変化を迎えなければならぬ。ポスト周恩來の「本命」とみられていた鄧小平副首相批判は、現在の情勢は、在外公館の人たちでさえも十分かみきれず、戸惑っているようだ。私ももちろ

手て現時点まで総括したに等しいものであった。ただ、文革派の人たちは心中おたやかでない。文革派が振っている人民日報などマスメディア、農村や工業地域の一部に鄧小平批判が起きている。一時はこうした批判が鄧氏は失脚するのではと噂された。しかしまだそのよつたニ

た。それがいま文革派の人たちによつてきびしく批判されている。鄧小平氏にしてみれば今後中国が去る道は毛沢東思想をうんぬんするよりも社会をより近代化し、経済力を強化しなければならぬといふところにある種の合理的主義に徹し、実践してきた。そ

鄧氏の地位不動か

軍部などはいぜん支持



なかしま・みねお 昭和三十五年東京外国語大中国科卒、四十年東京大大学院国際関係論専攻修了。四十二年東京外大講師を経て四十四年同助教授。四十四年から四十六年にかけて外務省特別研究員として香港に留学。四十一年秋、文化大革命の激動期に訪中したほか昨年より連、モンゴル、中国を視察した。現在外交政策懇談会委員、「国際環境」に関する海外学術調査プロジェクト団長。著書は「中国をみつめて」、「現代中国論」など多数。出身、長野県松本市出身。現在所は東京都板橋区常盤台一ノ二八〇三。

る情勢だから中国に対する見方(視点)を幅広く柔軟なものにしていくことが大切だ。さて通信筋などかもしれないが、鄧小平副首相が世紀の宰相であつた周恩来首相の追悼大会(一月十五日)で平葬を断んだという事は結婚葬を重んじる中国人の心情からすると大変な出来事である。まして文化大革命の時期に鄧小平氏を批判

しては、さらに毛沢東側近グループの文革派が振っている人民日報などがいわれている。もしもこの状況が真実だとするならば、この状況は動かないわけだ。中国はいぜん流動をつづけるのではないかと懸念する。さらに軍についても走資派批判はほとんどみられず、鄧氏はいまでも人民解放軍の総参謀長として重要な地位にあり、彼の軍の重要な地位については核突

が、ちよつとした準必需品、例

判している人たちは、これは大変なことになる、という危機感

が中国そのものとはいえないし、中国は複雑な社会構造になつて

た。その方針を病身の周氏にか

る。それしても今回の走資派批判は党大会とか全国人民代表大

の地位にある。むしろ彼の軍の重要な地位については核突

場での講演要旨。

会などの公式の場で起こつたも

防の近代化、科学技術の向上に

さる十五、十六日開かれた山陽時局懇談会岡山、福山会

周恩来

中国とその将来

<下>

東京外国語大助教授 中嶋嶺雄

根深い走資派批判

江青女史の行動に注目

政策論争なら党中央委員会などやればよいのだが、中国ではどうも政治のシステムがなくなっている。なんとなく人間臭い権力闘争の色彩が強い。とくに毛沢東夫人の江青女史のかけがえにちろついているのが気になる。

しかし、客観的にみた場合、中国の社会的国家的要請としては批判の対象にされている鄧小平氏などのいわゆる走資派の政策の方が善美なように思える。

このことが鄧氏の潜在的な強みになっているのではなないだろうか。鄧氏は批判の嵐にじつとたえていればやがて時は利するようになる。まして毛沢東なきあの中国を考えるとむしろ有利になるのではないか。「いまこそ走資派をたたかねば不幸なことになる」と周恩来首相候補のおとぼけに批判連動をくり広げた毛沢東思想を総

承る文革派の「あせり」がわかるような気がする。しかも国際環境をみても中国は一九七〇

関係が改善される可能性はまったくないし、当面という方向は維持せざるをえない。

中国はとらえがたいと述べたが、もう少し話をしほつて走資派批判の背景をふりかえつてみ

片づけられたという。もつと

鄧小平氏が行っている政策は周恩来なき周恩来路線なので、そのことを進めていけば周恩来批判になるのではないか。一部の騒新聞でそんな批判が出ているというところになればますますそう考えざるをえない。

日本の北平大使館から送られてきた確実な情報だが、一月十五日に周恩来首相の葬儀があった全国各地から送られた花門前の献花が十九日になると全部片づけられたという。もつと

年代前半に米中接近、日中国交

文革派の人たちは鄧氏らの政

不忠誠なことに建國以来の経緯

がする。むしろ周恩来氏もつと

という状況の中で大きく転換

策を批判する一方で米國との密

であり、あれほど偉大な周恩来

もつと生きながらえたかたつた

し、後戻りできない時の流れで

接な関係を築きあげようとした

の記事がそれ以来人民日報など

にだなく。鄧氏は批判の嵐に

ある。中国の貿易一つをみても

がする。ウオーターゲート事件

に出なくなった。常識的にみて

う。この考えをみると走資派批

八五割は西側諸國が相手であ

る米國民に断罪されたエクス

も半年か一年ぐらい周氏をし

判の根はもつとつと深いよう

り、今後「軍國強兵」を推進す

るためにはますます貿易を拡大

大歓迎した。このときは江青女

史や首相代行になつた華國録氏

せざるをえない。この政策を修

正主義、資本主義復活だとい

つてみたところで、近代化を自

力闘争を如実に反映している

てみたところで、近代化を自

も積極的にエクスポートをもて

なつてきた。周恩来は走資派

とどんな関係にあったのか。ま

な中国では受け入れられる余地

は少ないのではなからうか。中

なナソの二つである。

恩来路線に対する批判である。

は少ないのではなからうか。中

なナソの二つである。

恩来路線に対する批判である。

に、かぎり、があつたつた。